

新しい学力観と附属の伝統に基づく高校教育研究

学校長 大谷 実

『高校教育研究』は第69号を数えます。本紀要は、昨年創立70周年を迎えた本校の歴史とともに号を重ねてまいりました。本校は、終戦間際、わが国で第三番目に設立された高等師範学校である金沢高等師範学校に設置された理系分野の顕才を育成する特別科学学級が戦後に改組され、日本海側で唯一の官立の附属高等学校として、将来の我が国や世界をリードする人を育成することを使命とし、来るべき世界の動向を視野に入れつつ、高校教育の本来的な在り方や、先見的・先導的な試みや提言などを毎号発信し続けてまいりました。

昨年3月には中学校までの新しい学習指導要領が告示され、本年3月には高等学校指導要領が告示される予定です。戦後9次となる今回の改訂は、グローバルな社会課題が顕在化し急速な情報化や技術革新による生活の変化が想定される新しい時代に、叡智をもって活躍しその先の豊かな未来を拓くうえで必要不可欠な資質・能力の育成を第一に掲げている点で、極めて大きな変革であるといえます。今回の改訂は、「何を学ぶか」という旧来の教科等の知識・技能中心の編成原理から、「何ができるようになるか」という汎用的な資質・能力の編成原理へと転換し、資質・能力を育成するために必要な学習内容や学習科学等の知見に基づく望ましい学習方法を、学校教育全体にわたって首尾一貫して提案しています。確かに、実社会では、他者と協働しつつ、目的に応じて知識や技能を自在に活用して質の高い問題解決を成し遂げる力が求められますが、学校では要素的な知識・技能の習得に腐心し、資質・能力を軽視する傾向があったように思われます。その意味で、これからの高等学校には、将来の生徒に必要な資質・能力を視野に入れた社会的にも価値のある学習内容や活動が求められます。

本校には資質・能力の育成を大切にする伝統があります。本校の母体である特別科学学級の「特別科学教育実施要綱（案）」では、特別科学教育の目的として、「国民生活ヲ飛躍的二向上シ、進ンテ世界ノ平和ニ寄与スベキ新科学文化ヲ創造センガ為ニ、特別科学教育ノ研究実施ヲナスヲ目的トス。」とあり、さらには、教育方法の方針には、「眼ヲ広ク世界ニ開キテ科学成果ノ精粹ヲ習得セシメ、卓越ナル新境地開拓ヲ助長奨励ス」とあります。さらに運営方針の一つに「自発研究法案」というものがあり、「自発的積極的タル旺盛ナル学風の樹立ニ留意シ、ソノ簡単ナル個人ノ自発性ニ止マラズ、集団共同的自発性ノ開発指導ニ留意ス。」と述べられています。その学習階梯としては、課題、自学自習、相互学習、学級学習という諸段階が設けられており、課題では「自発研究モ単ナル興味本位ノ即興的研究ニ放任セシメズ、体系的發展的ニ指導ス」、自学自習では「偏狭ナル個人主義ニ終ワラシメザルヨウ留意シ指導ス」、相互学習では「共同的態度ノ確立ヲ期ス」、学級学習では「研究ノ組織ト分担ノ方法ヲ会得セシム」とされています。この様に、開学当初より本校では探究的で協働的で深い学びが目指されていたことに驚きを覚えます。

本紀要には、内外の最新の動向も視野に入れた教科指導の在り方、「主体的・対話的で、深い学び」を重視した授業改善、課題発見や探究力等の多元的評価、ICTツールを活用した先進的な学習手法等に関する挑戦的な論考が所収されています。本紀要が社会に開かれた教育課程やカリキュラムマネジメントの在り方に寄与し、さらなる研究を触発する一助となりますならば、これほど喜ばしいことはありません。各研究論文に対しまして、読者の皆様からの忌憚のないご箴言やご批判を賜りますようお願い申し上げます。